

大災害のときは助け合って命を守ろう

住民同士 助け合うことで
多くの命を救える



大災害の際には、住民同士が助け合わなければ、被災の混乱を乗りきることはできない。自分や家族だけが助かればいいということではなく、まわりの人と力を合わせて、一人でも多くの人を助けることで被害を軽減することができる。

■ 迷わず協力を頼む

倒れている人に声をかけて反応がない場合には、大声で「誰か来てください。人が倒れています！」と近くの人に協力を頼もう。付近に AED（自動体外式除細動器）があれば、持って来てもらおう。

■ 助け合って救助する

柱や梁などにはさまれている人を発見したら、まわりの人にも声をかけ、力を合わせて助けよう。意識があるかどうかを確認し、励ますことも大切。車に積んであるジャッキなども活用できる場合もある。

■ 応急救護を行う

大災害では負傷者が多くなるが、道路が通行できなくなり、救急車の到着が遅れたり困難になり、救出活動が間に合わないことも考えられる。軽い怪我などの処置を身に付けておけば、多くの人々の救護に貢献できる。